

認知症と向き合う

鹿屋市立鹿屋女子高等学校 二年

おお くぼ ゆう か
大窪 悠香

「ゆうかちゃん。」

と、私の名前を呼ぶ祖母。あたり前のことだったこの言葉を今聞くととても嬉しく感じる。

祖母は四年前に認知症と診断された。早くに祖父を亡くして、もう十年以上も一人暮らしをしていた。常に元気で健康にも気をつかう人だったのにどうしてこんなことになってしまったのだろうか、最初は受け入れることができずにいた。

始まりは足を痛めて入院した病院先で異変を感じたときだ。顔つきが違っていて、会話の内容がおかしかった。もしかすると本当はもうすでに始まっていたのかもしれない。

私達家族の名前も忘れてたり、物事が分からなくなったり、一番こわかったのは道が分からなくなり、迷子になってしまったことだ。見つからなかったらどうしよう、事故に巻き込まれていたらどうしようとても心配したことを覚えている。

私はこの夏、高二のインターシップに介護施設を希望した。祖母が介護施設でどのような生活をしているのか、また介護士とはどのような仕事なのか知りたいと思ったからだ。

入所者は全員が高齢者で大正生まれの方もいてびっくりした。認知症ではあるが、自分で洗い物などができる方もいた。私が一緒にぬり絵をしていると、

「きれいな黄緑色だね。」

と言ってほめてくれたおばあちゃんがとてもかわいく思えた。入所者ひとりひとりに声かけをし、リハビリや食事介助など忙しく動き回っている介護士さんはいつも笑顔だった。祖母もこんな介護士さんと過ごして笑顔になっているのかなと思うと嬉しくなった。今まで、介護という仕事は私には絶対に無理だと思っていたが、おじいちゃん、おばあちゃんを笑顔にできる。そして自分も笑顔になれる。そんなすばらしい仕事だと気づくことができた。今後の進路に介護福祉を取り入れてみようと思った。

認知症の根本的治療はまだ開発されていないが、予防として今できることはある。食生活を整える。運動を心がける。社会的つながりを持ち、コミュニケーションをとることが大切。学校生活を送れるイコール健康という

こと。健康イコール幸せということ。学校とはすばらしい環境なのだと改めて思った。

両親世代への予防法も今後勉強していきたい。

祖母が認知症になる前にできることがあったのではないかと深く後悔したこともあった。面会に行くと、本当に一瞬だが、目を見開いて記憶が戻ったかのように私の名前を呼んでくれるときがあるのだ。今は穏やかな顔で私の手を握って帰るまで離さない祖母。

たくさんかわいがってくれた祖母に感謝しつつ、祖母の心がいつまでも幸せであってほしいと願う。